

『東京もいわ会』から一言

東京もいわ会

副会長 鈴木義則

東京北見会の皆様、第34回総会開催大変おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

これらの年輪の如く1年1年ごとの歴史を刻み込んで東京北見会の継続発展に尽力される賜物でありましょう。

さて、我々東京もいわ会（北見工業高等学校同窓会関東支部の俗称）活動も再開致しまして早4年目を迎えることができました。再開準備の2007年には元東京北見会幹事長でありました故田隈さんのご尽力ご支援をいただきながら、さらに我々役員の定期会合場所をご提供戴き、再発足を誓い合わせて戴きました。

また、東京北見会の役員の方々ははじめ、会員の皆様方からの暖かいご支援にも支えられ、まだまだ一人前の活動にはほど遠いですが、一步一步前進して参りたいと思います。

昨年より総会の毎年開催を断念した経緯はありますが、3年毎に実施することで新鮮な出会いと再会するメンバーへの強い思いを期待しています。今回の開催は、再来年（2013年）の7月を予定しておりますが、その間においては、会員メンバーへの東京も

わ会への関心と存在アピールのため、近況活動状況、会員の会社紹介、母校からの近況などを掲載した『東京もいわ会会報』の発行を進めております。その会報発行の準備等を含め役員の定期会合を行っておりますが、今年から、『かながわサイエンスパーク（KSP）』に会社事務所を抱えているミクロソフトウェア社長の田中さん（東京もいわ会役員）に会合場所を提供させていただいております。午前10時～約2時間程の会合のあとは、1階のレストランで昼食をしながらの談話で盛り上がります。

ただこれからの『東京もいわ会』を

存続させるためには、第一に会員メンバーがその気になって盛り上げていただかなくてはなりませんし、若い世代への伝承がしつかりとできなくてはなりません。そんな大きな悩みを抱えながら、高齢？役員だけの会合になっていないかと反省しつつ会報発行と配信（約300通）に懸命になっているのも事実です。

今井会長はじめ我々役員は、北工OBメンバーとの繋がりを心から互いに支え合って行ける場をと真剣に取り組んでおります。是非、一人でも多くの会員メンバーが次回総会へ参加していただけるよう期待しております。以上



KSP 1階レストランにて昼食のひととき

私の趣味 アイスダンス

日本スケート連盟公認指導員
スケートの立人 阿部光明

アイスダンスセッション、音楽をお伝えできないのが残念です。波打つような「ワルツ」、軽快な「フォックストロット」、闘牛を思わせる「パソドブレ」、流れるような速さその名も「クイックステップ」、他にも社交ダンスでおなじみ「タンゴ」、「ブルース」、「ルンバ」、「サンバ」等々、曲は順番

に流れてきます。そんな音楽を二人で表現しながらの氷上スケートティング、それがアイスダンスです。両者の調和を意味するユニゾンを保つことがこのスポーツの醍醐味だと思っています。ホールドにしても、手だけでなく、体全体のボディランゲージで動きを伝えかつ動きを察知します。息が合っとうまく踊れたときには、無駄な動きが

無くなった分余裕が感じられるから不思議なものです。技術的には、一人で滑るのと違い上体の動きは禁物、更に両者の位置関係が重要です。外見上はチューリップの花の形、つまり両者がより接近し上体が花開くような形になれば最高です。えてして手に力が入り腰が引け、間が空いたがつぷり四つの体勢となりがちで、ダンス転じてはつけないのこった、の世界になってしまふものです。

一般のリンクで練習するときは、ヘッドホンの同時再生で同期させパートナー共々アイスダンス音楽を聴きながら楽しんでいきます。

最近「アルゼンチンタンゴ」が踊れるようになりました。典型的なタンゴ表現の曲として知られ、メリハリのあるディープエッジの滑りが基本で、峻なエッジの切り返しが見せ場です。平成24年度冬季シーズンから新装オープンする北見市民スケートリンク、今から郷里のこのリンクで滑るのを、そしてアイスダンス愛好者が増えること、を夢見ています。

インベリ
のベリ
ローナ
プタナ
はクン
手ラド
ストの
私でも
よく

